

印刷編輯人 川崎文治 發行所 常磐毎日新聞社



定一部五銭 廣五銭 休日大衆 印刷所 本報印刷部

刊夕日十二月二十

冬の海上生活(上)
 練習生の手紙
 十一月も末日に近より内地は何程か寒さが加はつた事と存じます。幸ひ皆様御健在ですか切に御健康を祈ります。十日午後一時在港艦船と登陸式を交換しながら出港灣口にて見送りの小蒸氣と飛行機に別れてから愈々練習艦隊三隻軸相ふ

くんで故國を離れました灣外に出た頃から風浪烈しく暫らく陸上生活の後とて、少々酔ひ氣味になりましたが、元氣で夕暮の中に消えて行く房州の山と伊豆半島その上に聳えておる扶容の峯に別を告げ暗闇の中を針路を南東にとつて大海の中に乗り出しました。艦中の生活は例によつて忙しく毎日水と空ばかり眺めて暮しながらも案外日が早く経つて行きます。経度が十五度進む毎に時計を一時間進ませ百八十度の経度線を通り過ぎて十一月廿日に二日續けて送つたり陸では一寸見當りのつかない事です。第

二日の廿日には始めて西半球に入つたもの人間が勝手に區分した東半球と西半球との間には勿論一本の區分線ある筈なく相變らない大洋の鈍い「ウネリ」がのたりと舷を打つておるのみです。昨日午後三時双眼鏡をやつと布哇群島が水平線上に一刷毛の如く見え様になりました。故國を離れてから以來行逢ふ汽船もなく見えるのは八雲淺間の僚艦と空そればかりで随分單調な生活にも厭さくしてゐましたのでコロソボスの大陸発見の様な嬉しさは感じられませんでした。さすがに陸地が懐かしく思はれました。

東北東平劇場改メ
封切場 日本館
 電話 五五五

優俳屬專

▲猛優 ▲名花 ▲熱血兒
 澤田正二郎一派 水谷八重子一派 高木新一派
 ◎環歌子 ◎牧野輝子 ◎繪島八重子
 其他名男女優百四十名出演

日本劇專門

平陽民衆娛樂大殿堂

館内改造 面目一新 内容充實 天下無比

愈々來ル十二月二十日 開館

東亜キネマ

美味で評判の 遠藤パン

移轉廣告
 皮華科 入院應需
 見習看護婦二名聘雇 希望者來談あれ
新妻醫院
 電話(呼)五六九番

渡邊藥局
 工處方 染料業方 藥品調劑
 平町三丁目 渡邊政五郎 (郵便局向)

看護婦派出
 の求めに應ず
 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

大谷時計店 洋品部
 目丁三町平 番九一話電

青沼醫院
 醫學士青沼淡夫 電話四〇三番
 平町城山(舊城跡)三の丸
 入院科 小兒科 皮膚科 花柳病科

ヤトモツマ
 目丁四町平 番四一二話電
 早くマツモトの甘納豆を 召上り下さいまし

アイ好イ店
 良品ヲ安ク
クースーリ
 関内藥舖 藥劑師関内栄助 電話四〇番

丸登式株店
 平町田町 電話三三三番 川添房二郎

株式賣買中値
 電話に金融致し

| 銘柄 | 拂込 | 時價 |
|-------|-----|-----|
| 警城銀行 | 五〇〇 | 五三〇 |
| 平銀行 | 五〇〇 | 六八〇 |
| 警越銀行 | 一一五 | 一〇五 |
| 警城買替 | 五〇〇 | 四二〇 |
| 田村買銀 | 一一五 | 一一五 |
| 四倉銀行 | 一七五 | 一七五 |
| 農工銀行 | 二〇〇 | 二五〇 |
| 同新 | 一五〇 | 一九〇 |
| 同新 | 一一五 | 一四五 |
| 七七銀行 | 一一五 | 九八 |
| 郡山電氣 | 五〇〇 | 四二五 |
| 同新 | 二五〇 | 二二五 |
| 只見川電 | 一一五 | 七五 |
| 植田水電 | 一一五 | 一五五 |
| 好間水電 | 一一五 | 一三〇 |
| 警城建物 | 一一五 | 六〇 |
| 警城製菓 | 二〇〇 | 二五〇 |
| 平信託 | 五〇〇 | 二五〇 |
| 警城勸業 | 一一五 | 一三五 |
| 植田物産 | 三〇〇 | 二六〇 |
| 平製水 | 二五〇 | 一八〇 |
| 好間軌道 | 五〇〇 | 三〇〇 |
| 入山新 | 二二五 | 一七〇 |
| 小田炭礦 | 二二五 | 一〇 |
| 警城炭礦 | 五〇〇 | 四一〇 |
| 同新 | 二二五 | 一八〇 |
| 警城セメン | 五〇〇 | 六五〇 |
| 同新 | 三五〇 | 四四〇 |
| 平運送 | 一一五 | 八〇 |

縣下警察署長大異動

伊藤半署長は白河へ
本日午前十時發表

| 現任地 | 氏名 | 新任地 |
|---------|--------|--------|
| 平署長 | 伊藤儀一 | 白河署長 |
| 白河同 | 樺村慶 | 平署長 |
| 三春同 | 荒井市太郎 | 郡山同 |
| 高田同 | 猪狩清 | 中村同 |
| 猪苗代分同 | 目黒徳保 | 高田同 |
| 福島次席 | 佐藤榮次郎 | 石川同 |
| 警務課同 | 飯島助藏 | 福島次席 |
| 保原分署長 | 大内孫右工門 | 桑折署長 |
| 中村署長 | 橋本幸喜 | 保原同 |
| 四倉分同 | 澤甚次郎 | 田島山口 |
| 喜多方次席 | 佐藤正志 | 喜多方署長 |
| 中村警部補 | 鈴木傳三郎 | 若松署 |
| 須賀川同 | 佐藤東三郎 | 坂下署長 |
| 小野新町分署長 | 佐藤吉之進 | 猪苗代同 |
| 教習所警部補 | 阿部文雄 | 原町同 |
| 二本松署長 | 中野五郎 | 郡山同 |
| 三春警部補 | 高橋盛二郎 | 小野新町署長 |
| 郡山同 | 伊藤定吉 | 白河勤 |
| 田島警部補 | 益子保光 | 四倉分署長 |
| 衛生課同 | 荒川保治 | 本宮同 |
| 若松同 | 柴田鶴作 | 保安課 |
| 平同 | 山崎秋 | 練習所教官 |
| 警務課同 | 箱崎秋勝 | 衛生課 |
| 保安課同 | 田口喜孝 | 練習所教官 |
| 同 | 渡邊博義 | 平署詰 |
| 二本松同 | 大久保富彌 | 三春 |
| 原町 | | |

得意の人と失意の人

失意の人
双葉郡長に榮轉した遠藤石城上席郡書記は押へ切れぬ喜びをかくして「務まるか」

得意の人
富岡には郡長官舎がないから先づ家を探してから赴任せねばならぬ様な驛で一寸も気が落ち付きません」とニコやかな笑みを浮かべて

内郷村の稻田被害は 礦毒の爲めと決定 縣當局試験の結果

石城郡内郷村對磐城炭礦の礦毒被害問題は同村農會側から礦毒被害賠償金五萬六千圓の支出を交渉したるに會社側に於ては縣當局並に仙台礦務所の被害調査の終了を 見なければ 回答出來ぬとの事にて未だ解決するに至らなかつたが 此程縣農事試験場の調査書 完成したが其の概要は次の如くで礦毒被害ありと認め た『石城郡内郷村に於ける

排水にふくまれて居る 水稻灌溉水は同村を流る、 白水川、宮川に依り得るものであるが此の

二川の 灌溉水に使用した坑内水を本縣農事試験場にて分析の結果灰分アノモニヤにより沈澱、酸化カルシウム、同マグネシウム、鹽素、無水流酸外二種であつて反應は中性を呈するものである、以上の水分中水稻の生育に害を及ぼすものは鹽素外礬土の二

居る一方精勤の爲めに評判の好かつた伊藤半署長は白河轉任の電話に接し「首が飛ばぬ丈見付けものサ、浮き沈みは官界の常だが一度も行つた事のない白河の土を踏むのは少々心細い、第一君此暮が迫つてから動かされるのは餘んまり好い氣持でもないヨ」と淋く笑ふ

全國炭礦界の大關に 天下に呼號し得る

農商務省鑛山局調査に係る全國重要七十炭礦の出炭總數は大正一二年に於て二千六百三十八萬五千二百五十八噸を算し前年に比し百四十一萬二千九百五十九噸の

増加で その内百萬噸以上の處は三池大の浦夕張の三箇所だけで常磐方面には口惜しい乍ら一つもなかつたのであるが十三年に於ては先づ磐城が確實であり入山でも既に十萬噸計畫が出来てゐるからこれ亦馬力を かければ兩三年に於て百萬噸の大關格に入る事が出来ようと思ふ斯くして磐城が炭礦地として天下に呼號し得る日が来るであらうと



大豆コロツケ

大豆は煮にして、水をきり少量の鹽をふりかけておき

ます、ジャガイモは、まるのまま、軟かにゆでて、皮をむき、裏ごしにかけておきます、適宜の鹽とコシヨを加へ大豆をませ合せて好みにまるめ、うどん粉にまぶしてといた玉子に浸し、パンコモチ煮立つたラード又はゴマ油に投げ、狐色に揚げて皿に盛り、きざんだ

五日間休み 勤め人喜ぶ

天下晴れて 勤め人喜ぶ

来る廿八日の御用じまひが日曜に當つて居る處から年内に於て一日儲けの勤め人は十四年の御用始めである四日またぞろ日曜とあつて年内の二十八日から新年宴會當日の五日迄九日間と云ふものはぶつ續けに而も天下晴れて休める勘定となるので今年や官吏の當りとはばかりカレンダーを繰り居る向きが多い

平町會開く 區長選舉其他

平町會廿日午前十時から開會區長選舉の件は新川町區長松崎房次郎氏、同代理佐藤源吾氏當選し猪瀬政雄氏から小學校の寄附金廿五圓を採納すべく可決した

捕賊功勞賞 鈴木氏外三名

平町鈴木長三郎、鈴木彌太郎、三井富吉、鈴木キチの四氏は去月廿三日窃盜犯人安瀬久を逮捕した功勞に依り十九日附香坂知事より賞金一封宛を送られた

平署忘年會 平警察署にては廿七日午後六時より平町扇屋旅館に於て署員全部の忘年會を開くと

平町に於ける今月十五日現在の市中諸品の小賣相場を調査に依れば一般に物價下落の傾向で六十品目の中騰貴は僅三品で四十八品は保合、十一品下落、二品切れと云ふ數字を示してゐる、騰貴の品は鶏肉の百多十錢高、金布一反十錢高等で下落の品は白米一貫四錢安

下落の傾向 騰貴は三品

鶏卵十七錢、干瓢七錢位各百多當り安値野菜や綿等も下落して居る其他牛肉や石炭木炭等は保合である。

廿二日は冬至 ゆず湯をわかつ日 廿二日は冬至で日が一番短い日であるこの日から俗に疊の目一つづ、日が延びてゆくわけです、お湯屋では例によつてゆづ湯をします當日湯に入ると風邪を引かないといはれてゐます

記者招待懇談 平町警城使政會にては本日午後六時から在平新聞記者を大和家へ招待し懇談會を催す由

平町に於ける今月十五日現在の市中諸品の小賣相場を調査に依れば一般に物價下落の傾向で六十品目の中騰貴は僅三品で四十八品は保合、十一品下落、二品切れと云ふ數字を示してゐる、騰貴の品は鶏肉の百多十錢高、金布一反十錢高等で下落の品は白米一貫四錢安

然かも 最も害を及ぼしたものは硫酸礬土である、而して被害面積の内譯は字白水九町七反餘、上綴九町六反餘、高坂十四町八反餘、内郷四町四反餘、上綴二十一町二反餘、御厩四十二町二反餘、小島廿五町九反餘で

坪刈り に於て一反歩換算玄米收量は最も被害の大なるは一石三斗一升七合、中通り一石六斗七升四合、小なるも一石九斗五升の減收を示して居るがこれ等の礬毒は重に磐城炭礦高坂坑、綴坑の排水に含有し居るものである

成分で

大豆は煮にして、水をきり少量の鹽をふりかけておき

増加で

来る廿八日の御用じまひが日曜に當つて居る處から年内に於て一日儲けの勤め人は十四年の御用始めである四日またぞろ日曜とあつて年内の二十八日から新年宴會當日の五日迄九日間と云ふものはぶつ續けに而も天下晴れて休める勘定となるので今年や官吏の當りとはばかりカレンダーを繰り居る向きが多い